

## Role of persistent anticyclones in Eurasia during the rainy season (Meiyu/Baiu season)

著者	王 亜非
内容記述	Thesis (Ph.D. in Science)--University of Tsukuba, (A), no. 1093, 1993.3.25
発行年	1993
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/4958">http://hdl.handle.net/2241/4958</a>

氏 名(本 籍)	王 亜 非 (中 国)
学 位 の 種 類	博 士 (理 学)
学 位 記 番 号	博 甲 第 1093 号
学位授与年月日	平成 5 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 1 項該当
審 査 研 究 科	地 球 科 学 研 究 科
学 位 論 文 題 目	Role of Persistent Anticyclones in Eurasia during the Rainy Season (Neiyu/Baju Season) (ユーラシアにおける雨季(梅雨季)のパーシステント高気圧の役割)
主 査	筑波大学教授 理学博士 河 村 武
副 査	筑波大学教授 理学博士 安 成 哲 三
副 査	筑波大学講師 理学博士 田 中 博
副 査	気象研究所 理学博士 木 田 秀 次

## 論 文 の 要 旨

本論文は日本・中国などの梅雨に関係が深いブロッキング高気圧などの持続性高気圧(以下ブロッキング高気圧と呼ぶ)の地理的分布と梅雨前線の活動との関係、オホーツク海におけるこの高気圧の発生にともなうロスビー波の伝播の梅雨前線への影響を明らかにしたものである。1971年-1984年の間の6・7月にユーラシア大陸上の $50^{\circ}\sim 70^{\circ}\text{N}$ ,  $21\sim 160^{\circ}\text{E}$ の範囲内にブロッキング高気圧の出現する度数の多い地域はウラル山脈付近、バイカル湖付近、極東からオホーツク海にかけての三つがある。このうち梅雨と前線活動関係が深いのはバイカル湖付近のものと、極東からオホーツク海にかけてのものである。バイカル湖付近の高気圧は中国における梅雨前線のすぐ北側にある寒気を伴っていて華中の梅雨前線活動を活発にする。また低気圧の日本付近を通過する度数が増加する。またオホーツク海からシベリア東部にかけての地域でも前線活動が盛んになる。

一方、オホーツク海付近の持続的高気圧に伴う波動を発見し、この波動がロスビー波であることを確認しこの高気圧の影響について解析を行った。

## 審 査 の 要 旨

梅雨と一口に言っても、内容は日本と中国ではもちろん場所によってかなり異なる。本研究では日本付近だけでなく、中国(華中・華南)も含めて解析し、それぞれの地域に影響するブロッキング高気圧が異なることを明らかにしたことは、従来の研究を一歩進めたものである。また、オホー

ツク海を発生源とするロスビー波の伝播を発見したことも特色である。まだ、残された問題も多いので今後の研究を継続して行うことを期待する。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。